



シェイクハンド

第42号
H26.9

～静岡県訪問看護ステーション協議会便り～

なやみは半分、よろこび倍増

さあ みんなで手をつなごう!!

「こんにちは！訪問看護です」 ～いのちと暮らしを支える訪問看護～

静岡県訪問看護ステーション協議会 会長 望月 律子

高齢化の進展と人口減少という大きな課題に向けて様々な社会保障制度改革が急激に進んでいます。医療介護総合確保推進法が成立し、「医療の機能分化」と「在宅医療推進」に大きく舵がきられました。2025年を見据えた目指す姿は、重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体化した「地域包括ケアシステム」の構築です。

「こんにちは！訪問看護です」は、日本訪問看護財団が作成したポスターのキャッチフレーズです。ポスターに登場する男女の訪問看護師達の笑顔とこの声が、これまでの地域医療を支え、そして今後益々必要になる時代です。

訪問看護ステーションは急増し、全国の事業所数は、2011年までの5000ヶ所が、2014年4月時点で7474ヶ所に増えました。当県でも今年度に入り、新規開設が相次ぎ、協議会事務局への開設相談も増えています。さらに、訪問看護ステーションの新たなかたちとして「大規模化」「複合型」への取り組み、精神科・小児等対象者の拡大、医療ニーズが高い要介護者の増加・認知症・看取り等、在宅医療・介護・訪問看護を巡る課題が山積です。

訪問看護ステーションの増加は歓迎すべきことですが、開設地域の偏在や質の担保という新たな課題も生じています。

この急激な変化をいかに受け入れ、これまで培ってきた実績と将来構想をどのように繋げていくのか、在宅医療の実情を最も熟知している訪問看護師たちの力が必要です。

訪問看護は、地域の医師やケアマネジャーとの連携なくして成り立つ制度ではなく、介護ニーズと医療ニーズを併せ持つ高齢者を地域で支えていくためには、介護保険制度の枠内では完結できません。主治医を中心に訪問診療、リハビリ、歯科、薬剤指導などの在宅医療が不可欠です。このことを最も理解



しているのが訪問看護師達です。

「看護職がどう動けば医療・介護が良くなるのか」「多（他）職種に託せない看護職の役割は何か」地域の実情を踏まえた答えが求められます。訪問看護は、「医療と介護」「いのちと暮らし」双方の視点で支援できる看護職の強みを発揮できる場であると考えます。

医療と介護の連携・介護サービス提供側のネットワーク化・連携は必須であり、これからの看護職はさらなるマネジメント力の強化が必要です。

在宅療養への準備が整わないまま在宅に移行する患者さんを引き受け、ジレンマを抱えている看護師の声を聞きます。医療機関との「看・看連携」を大切に、訪問看護の醍醐味を感じられるような体制整備を進めていきたいと考えます。

「こんにちは！訪問看護です」と堂々とさわやかな声が利用者さんたちに響き渡る社会が地域の幸福、そして後に続く後輩たちの目標になるはずです。

少ない人数で多くを支える時代の看護職は、ひとり一人が大切な存在です。「こんにちは！訪問看護です」生きる勇気を支える元気な声が聞かれることを願っています。



平成26年度 通常総会報告

平成26年度通常総会は、6月7日（土）静岡県総合研修所もくせい会館 富士ホールにて、一般社団法人静岡県医師会副会長 篠原彰様、静岡県健康福祉部介護福祉指導課課長 高橋邦典様、医療人材室長 酒井仁志様を来賓にお招きし、開催されました。

会員数146事業所のうち、出席は68事業所、委任状は51事業所で、会員の過半数の出席をもって総会は成立しました。

総会では以下の議案の審議が行われ、全て可決・承認されました。

1. 平成25年度事業報告・決算報告
2. 平成26年度事業計画・予算
3. 平成26年度静岡県訪問看護ステーション協議会役員

【平成26年度 静岡県訪問看護ステーション協議会役員紹介】

会 長	望月 律子	公益社団法人	静岡県看護協会	会長
副 会 長	上野 桂子	社会福祉法人	聖隷福祉事業団	監事
副 会 長	岡 慎一郎	一般社団法人	静岡県医師会	理事
理 事	石川 英也	一般社団法人	焼津市医師会	理事
理 事	櫻井 悦子	聖隷訪問看護ステーション	千本	所長
理 事	多田みゆき	訪問看護ステーション	ひより	所長
理 事	石井 由美	訪問看護ステーション	なかいず	所長
理 事	下田 智世	訪問看護ステーション	ぬまづ	所長
理 事	横田 佳苗	訪問看護ステーション	エイム	所長
理 事	森 洋子	まごころ訪問看護ステーション	静岡	所長
理 事	大村 純子	訪問看護ステーション	一休	所長
理 事	杉本 朝野	焼津市医師会訪問看護ステーション		所長
理 事	松平 泉	訪問看護ステーション	細江	所長
理 事	赤堀奈緒子	訪問看護ステーション	掛川	所長
理 事	市川七奈子	訪問看護ステーション	有玉	所長
理 事	川島 洋子	生協訪問看護ステーション	あおぞら	所長
監 事	石井 俊一	一般社団法人	三島市医師会	理事
監 事	鈴木 千春	公益社団法人	静岡県看護協会	常務理事

東部支部長 櫻井 悦子 中部支部長 横田 佳苗 西部支部長 松平 泉

広報委員 ◎石井 由美、大村 純子、赤堀奈緒子

研修委員 ◎多田みゆき、森 洋子、市川七奈子

総務委員 ◎杉本 朝野、下田 智世、川島 洋子

企画委員 ◎多田みゆき、櫻井 悦子、横田 佳苗、森 洋子、杉本 朝野、松平 泉

※◎は各委員会の委員長

事務局 鈴木 恵子、徳本 みき、佐川登美江



全体研修会報告

訪問看護ステーションふじえだ 原木 志げり

テーマ：「生涯寝たきりにならないためのピンピンコロリ体操」
 講師：中京大学スポーツ科学部教授 湯浅 景元氏
 開催日時：平成26年6月7日（土） 16：00～17：30
 会場：静岡県総合研修所もくせい会館
 参加者：90名

「生涯寝たきりにならないためのピンピンコロリ体操」という、今の自分にとって何にもまして興味深い講演を聴くことができました。今回の研修は「ためになるお話を聞いて明日からの自分の生活に取り入れよう」という思いで出席しました。

まず、湯浅先生のお元気ではずかしくした姿と各動作時の姿勢に驚きました。そしてお話を聞いていくうちに、日々の過ごし方が随分私と違っていることに気づきました。それは、今自分の行っている事や動作を常に意識しておられることです。この研修以後、少しずつではありますが、私も自分の動作に意識を向けるようにしました。そうしてわかってきたことは、「私は随分と自分の脳と体をアンバランスに使ってきたんだな。」ということでした。

先生の著書の中の「ピンピンコロリ体操」の中に、「老いることを経験できるのは、長生きしたご褒美だと考えましょう。その方が無理に老いることに抵抗するよりも健康的だといえます。」という文がありました。とても感動して、何かにつけ心の中で繰り返します。中には老いを経験しないうちに終わってしまう命もあります。私達はその「ご褒美」を頂けることを幸福と思わなければなりません。また、「心と脳を衰えさせない」の中では「あれ」「それ」などの代名詞を使わない、ということが挙げられていました。同年代の看護師が多い当ステーションでは「それをそこに置いて。」とか「あれはどうする？」など、まさに「あれ」「これ」の世界です。やはり毎日の意識づけが大切だとつくづく感じました。

資料の中では、5つの体操を通して、ピンピンコロリを実現することが勧められています。脳の体操では、何事によらず3日坊主の私は大変勇気をいただきました。筋肉の体操は現在も、1～2日に一回は行っています。一通り行くと、体がポカポカして軽く汗をかきます。天気に関



係なく、また自分の時間の中で行えるので、私としては生活の中に取り入れやすい体操です。一つ一つ体操の意味を考えながら出来るだけ続けて行っていきたいと思っています。

私自身、年齢的にも自分の体力や健康に不安を感じるようになり、体のあちこちに痛い所も出てきました。また自分を取り巻く環境でも、親の介護等で毎日忙しく、子育ての時とはまた違った大変さを感じています。私達は日々の訪問で、利用者さんやそのご家族から、たくさんの元気や勇気もらっています。それに答えられるよう、出来るだけ1日1日を元気に生きていき、また自分自身のため健康寿命を伸ばしていきたいと思っています。





ステーション紹介

東部 総合介護事業所 瑞

川村 英雄

はじめまして、総合介護事業所「瑞」です。
身も心も人生も永久に瑞々しくあれという事で、瑞と名付けました。

私達は、安心して在宅療養生活を過ごしていただく為には、医師と看護師と介護士の連携が必要だろうと考え、訪問看護と訪問介護事業を平成24年5月に開設し2年が経過、現在看護師4名（男性2名、女性2名）と介護職6名、事務職1名にて運営しています。

熱海市は温泉が有る事で定年後に移住される人達が多く、高齢化率は40%を超え、全国でも上位にランクされております。この状況ですから老々介護、高齢者の独居生活等まだまだ現実の世界です。また今の高齢者の皆さんは、昭和激動の時代を生き抜いてきており我慢強く、まだ大丈夫となかなか受診してくれないようです。初回訪問、即受診、入院となるケースもありました。もう少し早く関わればと考えますが介護保険の利用となるとなかなかむずかしいのが現状です。

この2年でターミナルも20名程関わらせていただき、数例ですが3者の連携も取る事が出来ました。その時家族より「安心する」「頼りになる」等の言葉や、後日「心強かったです、ありがとう」の手紙をいただいた時には、やってよかったとつくづく感じ思い、今後も取り組んでいきたいと考えてます。

熱海は傾斜が多く駐車スペースがありません。階段や坂道を20分近く歩く事もあり苦勞しますが、私達を必要と考えていただくなら、少しぐらい遠くても時間が許す限り、利用者・家族の希望を少しでも叶えてさし上げたく頑張っとうこうと思っております。他事業所の方達とも、連携を取りたいとも考えておりますので今後ともよろしくお願い致します。

次はニチイケアセンター富士訪問看護ステーションさんです。



中部 訪問看護ステーション ガイア

若林 美保

こんにちは、「訪問看護ステーションガイア」です。静岡の街中にあるビルの中に事務所を構え、平成23年の10月にスタートしました。当ステーションは、「医療法人社団アールアンドオー」リハビリ病院グループの事業所で、安心した在宅生活復帰・維持の最終ランナーとしても連携を図っています。最初は訪問看護のイロハが全くわからないところからのスタートで、困ったことがあると市内のステーションに電話して助けてもらったり、協議会が開催する研修等での学びを頂いたり、参加者の方たちで、コミュニティーを広げ悩みをきいてもらいながら、今

に至ります。

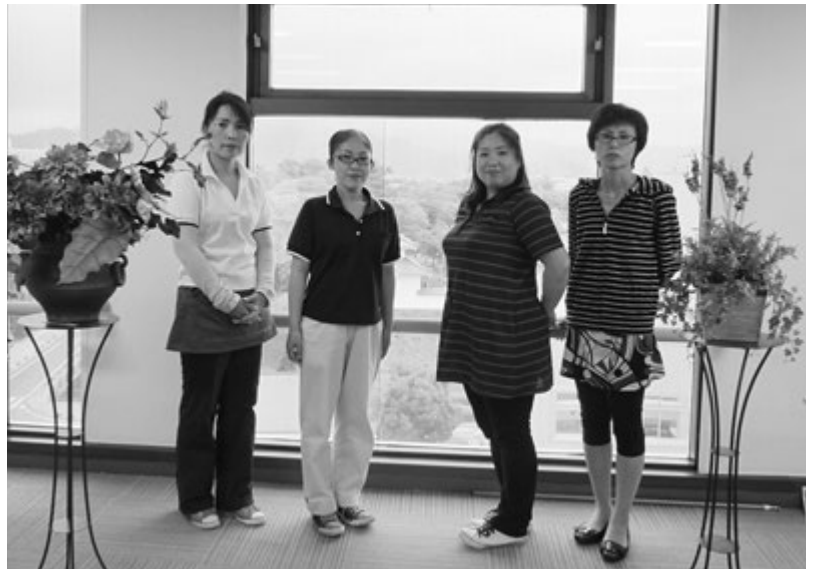
現在看護師4名、訪問看護の経験者が1名、訪問看護はほぼ初めての看護師3名が勤務しております。総合病院での経験が豊富なスタッフなので、観察・手技・処置等、安心した『医療提供』と、また、家庭の中にお邪魔させて頂き、正しい判断をお伝えさせていただくことで、信頼をいただけるよう、日々勉強させてもらっています。安心と信頼を継続して提供していくために、まだまだやらなければいけないことや、定例化していかなければいけないことが沢山あります。例えばリスクマネジメントの強化。



今後、急性期の在院日数が少なくなってきたら、今よりももっと医療的な処置が必要となってくるとおられます。小さなミス、はっとしたこと等、スタッフ同士でもっと共感して注意していくことや、家で安心して看取りが行えるような対策だとか・・・。

私達も自信をもって謙虚な気持ちで在宅医療支援ができるステーションを、これからも目指していきます。

次は、まごころ訪問看護ステーション静岡さんです。



西部 訪問看護ステーション あんしん

井口 修子

こんにちは。訪問看護ステーションあんしんです。当ステーションは、平成21年4月1日に開設し、5年目となりました。元々は、母体である医療法人遠江病院が、昭和54年、入院患者様を在宅に帰したいが家族の不安が強く、どうしようか？ということから往診・訪問看護を開始したと聞いています。平成12年、介護保険が始まり、介護保険に移行し、病院内のみなし訪問看護を行っていました。社会福祉法人にて行っていた、「ステーションあんしん」が人員不足にて維持できず、医療法人遠江病院と合併し、医療法人にて「訪問看護ステーションあんしん」としました。

人員は常勤2名、非常勤6名、OT1名にて行っています。非常勤者は磐田市・天竜区・東区に人材

を置き、訪問を直行・直帰できる体制をとっています。この事で、幅広く訪問に行ける様配置しています。昨年度より、精神科の訪問看護が改正され、当ステーションとしても、母体である病院が精神科を標榜している為、精神科の受け入れにも力を入れようと考えています。国でも取り上げられている、長期入院患者様を在宅に戻すことは、本人だけでなく家族の受け入れも大きな問題です。病院と連携をとり、不安に思っている家族へどうしたら安心して在宅生活が受け入れられるのか・送れるのかを一緒に考え退院へと導くことが出来ればと思っています。

当ステーションの利用者は高齢者が多く、最期まで在宅で看たいと思っても肺炎・転倒骨折等にて入院してしまい、看取りがかなわない事も多いです。家で看取りたかったという声も聞かれ、病院に対し、退院を待っているのではなく、入院中より積極的にステーションが関わっている事をアピールし、家族と共に最後を看取っていったらと思います。

最新医療が進む中、新しい治療法・器械にうとくなっていますが、総合病院などで行われる研修会に参加し、少しでも新しい知識を身につけようと努力しています。利用者様、ご家族様に訪問に来てもらって「あんしん」と言われるようこれからも努力していきたいと思っています。今後ともよろしくお願ひします。

次は、訪問看護ステーション三方原さんです。





東部支部研修報告 市民参加型シンポジウム

訪問看護ステーションけいあい

望月 征美

1. テーマ：看取りを支えるターミナルケア
2. 内 容：一部 基調講演：富士宮中央クリニック
院長 瀧本晃司先生
二部 パネルディスカッション：
コーディネーター 望月愛子氏
(訪問看護ステーションけいあい)
パネリスト 6名
コメンテーター 瀧本晃司先生
3. 開催日時：平成26年2月22日(土) 14:00~16:00
4. 開催場所：ラ・ホール富士
5. 参加者：134名



『在宅療養～決断から看取りまで～』をテーマに、富士宮中央クリニック院長・瀧本晃司先生に講演して頂きました。瀧本先生から在宅看取りについて具体的な説明があり、数多くの経験から参考にできる事が多くありました。また、開業するまでの経緯や幼い頃から読んでいた漫画の“ブラックジャック”を通して、生命の尊さを教えていただきました。

二部のパネルディスカッションでは、65歳女性、肺がん・脳転移末期の方の事例で展開されました。家族から経過や在宅で看取るまでの心の葛藤・家族の想いが語られました。病气中心の入院生活とは違い、散歩に行ったり、妻から夫へ調理についてのアドバイスをしたりと、入院していれば出来ない事が在宅では可能となり、残された家族にも大きな思い出となり、とても良い時間を過ごせると改めて実感しました。

家族のニーズは、直接的な介護の支援ではなく家族では対応できない医療的な支援を希望していました。医療処置のみでなく、その時々判断を相談したり間違いがない事の後押しをしたりする事も安心につながると感じました。

訪問入浴を導入しましたが、人前で入浴させる事への夫の複雑な思いも今回のシンポジウムで気づき、貴重な意見が聞けたと思います。

主治医・居宅介護支援・訪問看護・訪問入浴・福祉用具貸与の事業者からそれぞれの立場で関わりとケアの内容についてお話されました。それぞれが、利用者・家族の為に同じ気持ちで支援している事も理解できたと思います。

参加者の中には、サービス事業者で在宅看取り

の経験のある方や現在ターミナルの利用者を担当している方もいました。質問の中には『それぞれの事業者が注意していたことや反省について』や『在宅で看取る事への決断』についてなどがあり、在宅看取りについての関心の高さを再確認することとなりました。

在宅で看取るという事は、非日常的であり、現在の社会においてもこのような経験をされている方は少ないと思います。しかし、本人・家族共に住み慣れた家で最期を迎えたい・迎えさせてあげたいと思う気持ちはあるものの、死にゆく人を目の当たりにする事への不安や介護負担から選択できずにいる事もあると思います。最期をどこで過ごすかを考える時期が来た時に在宅看取りの経験のある訪問看護師が関わることで、在宅で看取る事への不安や葛藤、在宅の良さなど相談でき、本人・家族が決定する選択肢の1つとなると思います。利用者・家族の人生の一部分に参加させていただき、貴重な経験をさせていただき訪問看護という仕事に改めて誇りを感じました。これからも訪問看護をより多くの人に理解していただけるよう努力したいと思います。





西部支部研修報告

訪問看護ステーション有玉 市川 七奈子

1. テーマ：「苦情対応について」
2. 講師：聖隷浜松病院 安全管理室次長
中野 由美子氏
3. 開催日：平成26年6月28日（土）
4. 会場：浜松市福祉交流センター
5. 参加者：15名

2025年問題を目前とし、苦情や医療事故が増えていく可能性は予想され、それらを未然に防ぐポイント等を講義、グループワークを通して学びました。

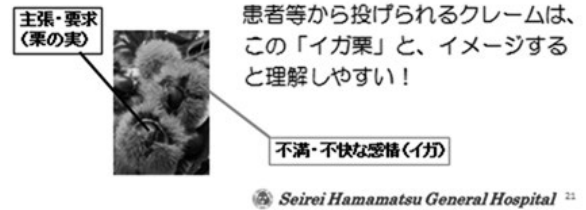
看護の業務は、形のないものを提供しており、利用者や家族はケアを受けた後に「期待通り」や「期待外れ」等の評価を出します。後者の場合、不満や苦情へととなりクレームに繋がります。そのクレームを『イガ栗』に例えられ、利用者等からの「主張・要求」が核心である栗の実。栗の実は不満・不快な感情のイガ（トゲ）で包まれています。と、理解しやすい表現で説明して下さいました。クレームを受けた時に、まずクレーム処理を栗の調理で例えてみます。栗のイガを取り除いて（あるいはイガを軟らかくして）、栗（というクレーム問題の核心である「主張・要求」）そのものをつかみ出し（把握し）、栗が果たして調理する（処理する）に値する栗（クレーム）か否かを見極めて選別する作業が必要です。単にクレームの言葉だけを傾聴するのではなく核心を見つけ出し対応しなければ、多種のことを次々と要求してクレームの常連になったり、利用者や家族の望むケア、内容に合わせたことにより誰の為のケアなのか？分からなくても、その場を穏便に済ませてしまうように、たとえリスクを負ってでも要求に応じてしまうこともあるようです。

グループワークでは、各自が対応に苦慮した事故や苦情等の体験を意見として出し合い、自身の事も客観的に見つめることができ、改めて「その栗の実は何だったのか？」を導き出したり、対処や対応の方法を各グループ毎で話し合うことができました。管理者という立場として日頃、利用者や家族、他者から受ける言葉への自身の対応や返答に「これで良かったのだろうか？」と悩むこともあります。問題が大きくならないように、円満に解決したい！と患者至上主義の呪

クレームの概念とその基本的対応

・クレームを「イガ栗」に例えて・・・

患者等からの「主張・要求」が、核心である栗の実
栗の実は不満・不快な感情のイガ(トゲ)で包まれている。



縛にとらわれない為に見かけの状況に振り回されずにベストな方法で改善に向かうようにしていきたいです。

今回の研修に参加して、これまで「うちのステーションは、不満や苦情、クレームなんて受けていないし、このままでよし」としていましたが、そうではなく苦情を受けてから慌てて対応するのではなく、日頃から未然に防ぐ為にケアの中で取り組める事を検討したり、管理者として出来事を客観的に捉える事が必要である事が分かりました。

訪問看護での契約を結び、そこからケアが始まります。ずっとトラブルがなく、より良い信頼関係を築きあげることができるよう、利用者や家族の言葉から栗（核心）を見つけていくよう心がけていこうと思います。

研修の参加者からは、「イガの部分ばかり見ていた自分に気が付いた」「本質を見つけられるよう、なぜそうするのか？を考えて聴くようにしていきます」「苦情を大きくしない為に本質に気がつきませんでした」等の感想を頂きました。

今後、超高齢社会を迎え、受療率が高まり、訪問看護の利用率も増えていくでしょう。自宅で安心して必要な看護を受けられ、在宅生活の継続ができるよう、利用者とその家族の生活スタイルや意見を尊重し、訪問看護師としての役割を果たしていきたいです。

研修を終え、学んだ点、気付いた点を自己の看護につなげていき、ステーション内でも、スタッフ間で共有していくよう、すすめていきます。



訪問看護師就業セミナーの開催について

今年も訪問看護師就業セミナーを開催します。

本年度は各地区3会場に増設して実施します。訪問看護師確保に向け、1人でも多くの方にご参加いただけるよう皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

地区	開催日（全日程3日間）	会場	
東部	伊豆	10/10（金）、実習、10/17（金）	伊東市観光会館
	三島・沼津	10/ 7（火）、実習、10/14（火）	サンウェルぬまづ
	富士・富士宮	9/ 9（火）、実習、 9/16（火）	富士市フィランセ
中部	静岡市	10/23（木）、実習、10/30（木）	清水テルサ
	志太	9/10（水）、実習、 9/17（水）	サンライフ焼津
	榛原	10/ 8（水）、実習、10/22（水）	榛原文化センター
西部	浜松市街	9/ 8（月）、実習、 9/24（水）	浜松市子育て情報センター
	浜松市北部	10/21（火）、実習、10/28（火）	なゆた浜北
	中東遠	9/22（月）、実習、10/ 2（木）	トータルケアひかり

※実習は各コース希望日で3時間程度（訪問の状況により延長の可能性あります。）

【講演会のお知らせ】

市民公開講座 在宅ケア普及啓発講演会

※手話通訳がつきます。

「自宅で死ぬ、ということ」

～住み慣れた地域で、最期まで自分らしく生きるために～

講師：ライフ・ターミナルネットワーク代表 金子 稚子氏

日時：平成26年11月15日（土） 13時30分～15時30分

会場：静岡県男女共同参画センター あざれあ 大ホール 静岡市駿河区馬淵1丁目17-1

対象者：県内在住の方（定員280名） 定員になり次第締め切り

参加費：無料

申込方法：11月7日（金）までに静岡県訪問看護ステーション協議会へ

TEL (054-275-3339) またはFAX (054-275-3338) で申込

その他の研修・お知らせ等は、ホームページに随時掲載していきますのでご確認ください。
空き情報も定期的な更新をお願いします。

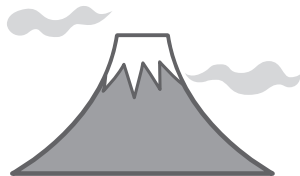
協議会HPアドレス：<http://www.shizuoka-vnc.jp/>



世界遺産に登録され二年目となった富士山を眺め、訪問に出ています。

富士山に登ったことはありますか？

皆さんと一緒に登ってみたいですね。



シェイクハンドNo.42

2014年9月発行

発行所 一般社団法人
静岡県訪問看護ステーション協議会
静岡市葵区川辺町二丁目4番地の13
常葉サテライトビル3階
Tel 054-275-3339
Fax 054-275-3338
e-mail sizuokahoumonst@cy.tnc.ne.jp

発行人 編集者 望月 律子
石井 由美（訪問看護ステーションなかいず）東部
大村 純子（訪問看護ステーション一休）中部
赤堀 奈緒子（訪問看護ステーション掛川）西部